2023_0907「浅間山と流星（写真）」日々の理科 3318 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

浅間山の映像観測を開始したのは 2004 年です。その年の 9 月 1 日に中規模の噴火があり、その後機器を更新しながら観測を続けているのです。中でも、デジタル一眼レフカメラを使った遠隔観測は、あまり例がないと思います。

2009 年 2 月にも小規模でしたが噴火があり、深夜だったこともあり、地元で撮影された写真はほとんどありませんでした。しかし、私のカメラはその一部始終を高精細な画像でとらえていており、翌日には全国の新聞に掲載されました。その写真は現在、大日本の六年理科の教科書に掲載されています。

この浅間山観測用のデジタル一眼レフカメラは、噴火や火映現象以外にも、さまざまな自然現象を撮影し続けています。その一つは天体です。恒星の動きは毎年同じ時期の同じ時間帯なら、同じように観測されます。しかし、惑星、彗星などの太陽系天体は、その都度ちがう動きをします。ISS（国際宇宙ステーション）や明るい人工衛星が写ることもあります。中でも「流星」は常時観測しているからこそ撮影できる対象と言えます。

9 月 7 日の未明午前 2 時前に、まるで浅間山頂に突き刺さるように、明るい流星が写っていました。

（2023 年 9 月上旬／浅間山／北軽井沢より観測）